



令和5年度 町政懇談会

1. 開会
2. 挨拶・説明
3. 質疑応答
4. 閉会



本日の懇談会のテーマ

1 庁舎整備について

2 町政運営について

- 宮崎地区の袋小路解消
- 名蓋川改修・災害時の情報伝達手段の充実
- 学校給食費の半額支援・子育て支援
- 農業の振興・中新田商店街の観光地化
- 風力発電事業に対する町の対応

1 庁舎整備について

新庁舎建設の意義

現在の本庁舎・支所等の問題点

- 窓口、手続き先の分散配置
- 建物の老朽化
(本庁舎はS41年築、57年経過)
- エレベーターの未設置
- 待合や相談スペースの不足



**課題解決が庁舎問題とともに先送り
長期にわたりご迷惑をかけることに**



新たな庁舎の整備により・・・

- 1箇所で用件を済ませられる利便性、事務の効率化
- 待合や相談スペースの充実、来庁者の利便性の確保
- 災害時の拠点機能、バリアフリー化、高い省エネ性

これまでの庁舎建設に関わる議論の推移

平成17年度～平成21年度(18～14年前) 議論・検討の深化

- 地域審議会の意見を踏まえ、建設検討委員会からの各種答申
(西田町有地のほか、国道347号沿線とする意見も)

平成21年度～平成22年度(13年前) 庁舎の位置を矢越へ

- 庁舎の位置を矢越とすることを検討
- 平成22年5月臨時議会において、庁舎の位置を矢越へ変更する位置条例が議員3分の2以上の特別多数議決で可決
- 建物の基本設計、土地の買収と造成工事まで完了

平成23年度～令和5年度 町と議会の考え方が異なる状態に

- 庁舎の位置を西田とすることを検討
- 平成24年3月と12月議会の2度、庁舎の位置を西田へ変更する位置条例が提出されたが、いずれも否決
- 令和3年度以降、職員による検討を再度実施(費用やスケジュール等)

矢越候補地と西田町有地の位置



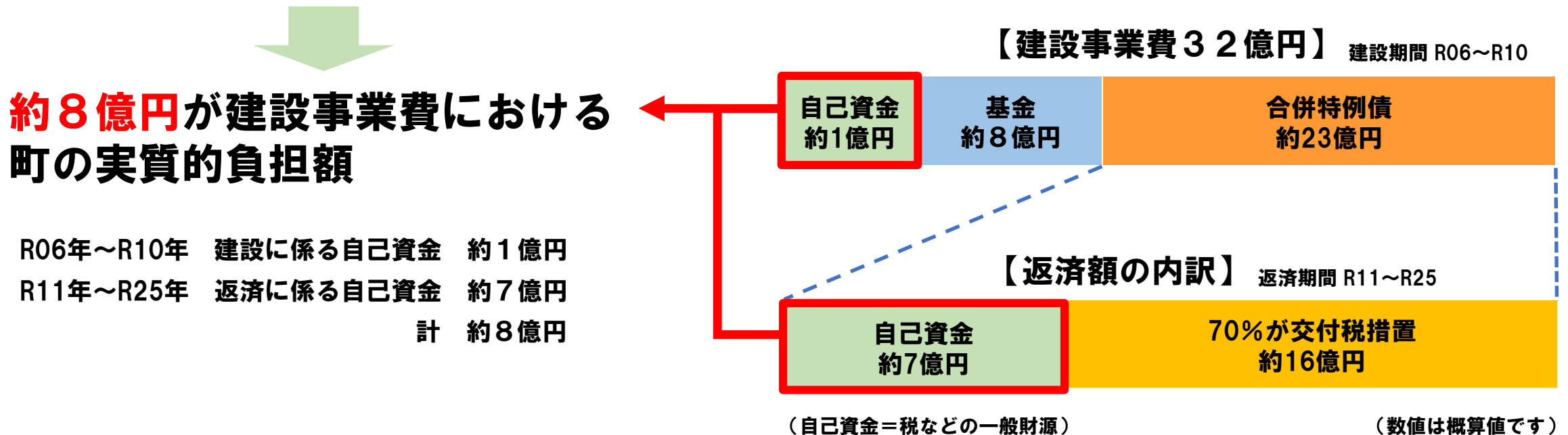
建設事業費と財源

合併特例債とは・・・

合併した市町村が、新しいまちづくりのために必要となる事業を実施する際に借りることができる地方債（借入金）のこと
借入のため返済が必要となるが、将来支払う返済金の70%が普通交付税で措置されるため、

実質的な町の負担は約3分の1程度まで軽減されることになり、非常に有利（下図参照）

建設事業費を32億円（R4試算値）とし、庁舎整備基金を8億円（貯金の取り崩し）使って、
合併特例債を活用すると・・・



建設までのスケジュール

合併特例債の発行は「令和10年度」が期限

発行期限から逆算すると・・・

令和10年度中に移転を完了し、現庁舎を解体

令和6年6月

基本設計着手

町民ワークショップ等の実施

令和7年6月

実施設計着手

詳細設計・積算・建築確認など

令和8年6月

建設工事契約・工事着手

工期を約18ヶ月と想定

令和9年12月

新庁舎完成・引渡し

通信・外構工事、備品搬入等

令和10年5月

現庁舎から引越し、新庁舎の開庁

現庁舎の解体工事

町有地の利活用案

西田町有地の活用方法（案）

- ・ 中新田小学校の建替用地として活用
- ・ 定住促進のための住宅用地として活用
- ・ 初午まつり等への対応も考慮し、当面の間は空き地（駐車場利用）として管理

小野田・宮崎支所のあり方について

- ・ 現在の機能を維持するとともに、利便性向上を図る

2 町政運営について

宮崎地区の袋小路解消

地域の方々の昔からの思いである、宮崎地区の袋小路解消に全力で取り組みます！



宮崎地区の袋小路解消は、地域の活性化や地域間交流の促進に寄与するだけのものではなく、**温泉保養地や各種リゾート施設、名勝地に至る周遊ネットワークを形成し、最上並びに大崎圏域を越えた地域連携の基盤**となり、地域発展に大きな役割を果たすものと考えております。

また、これは加美町及び隣接市町のみならず日本海から太平洋を結ぶ**物流・防災の拠点化並びに行楽時期における国道47号の渋滞解消**にもつながります。さらには、現在加美町で建設が進んでいる鳴瀬川ダムを含む**6つのダムを観光資源としたダムツーリズムの推進**を図るためにも、関係市町と密に協力し合い、国や県に対し整備促進を働きかけていきます。

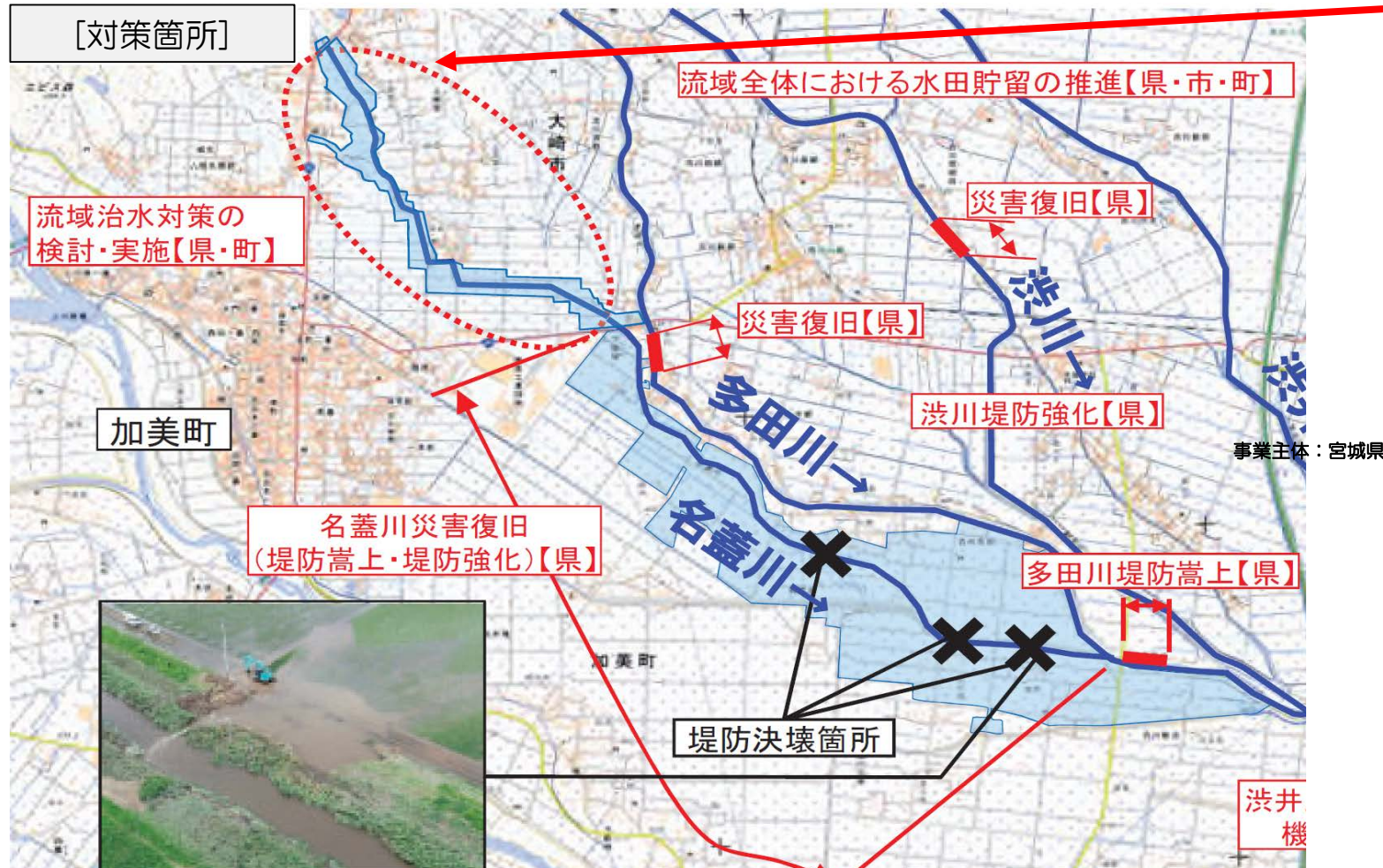
「国有岩堂沢林道より最上方面を望む」



名蓋川改修

宮城県が管理する一級河川名蓋川は、昨今の豪雨や台風による記録的降雨量により、大崎市矢ノ目地区では堤防が度々決壊し、加美町雑式目並びに平柳、下狼塚、上狼塚地区でも宅地や農地に冠水被害が生じていることを受け、**国道347号より下流部の築堤区間4.1kmの災害復旧(堤防補強・嵩上げ)について令和8年度完了を目指し実施します。**

また、国道347号から上流部についても、家屋浸水被害を受けた箇所について浸水被害を軽減させるための対策を行う事としており、併せて「**氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための流域治水対策**」について、今後県と町で協力して実施に向けた検討を行ってまいります。



※：※災害復旧箇所は、代表箇所を示している。

この資料は国土地理院のデータを基に作成しています



○町道冠水(R4.7.13 上狼塚寺前)

災害時の情報伝達手段の充実

災害の頻発化・激甚化

地震、台風・大雨による水害 など



国際情勢の緊張化

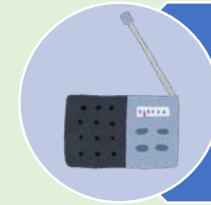
北朝鮮による弾道ミサイル発射 など

情報伝達手段
の整備が必要

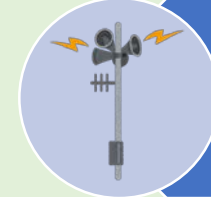
今後の整備推進（案）



スマートフォンの
災害情報アプリ



個別受信機
タブレット



屋外スピーカー

ほか、考えられる手段は多種多様

しかしながら整備には多額の費用が必要、有効性や費用対効果の観点から、

検討を重ね整備を推進していきます

学校給食費の半額支援

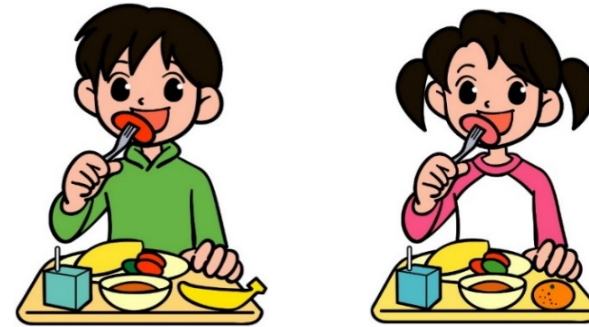
開始時期

令和6年4月から

給食費支援の対象

町内に住所を有し、小学校・中学校に通う児童及び生徒

物価高騰が続く中で、子育て世帯の経済的負担の軽減を図り、子どもたちの健やかな成長と、安心して子育てができるように支援します。



＼将来を担う子どもたちのために／



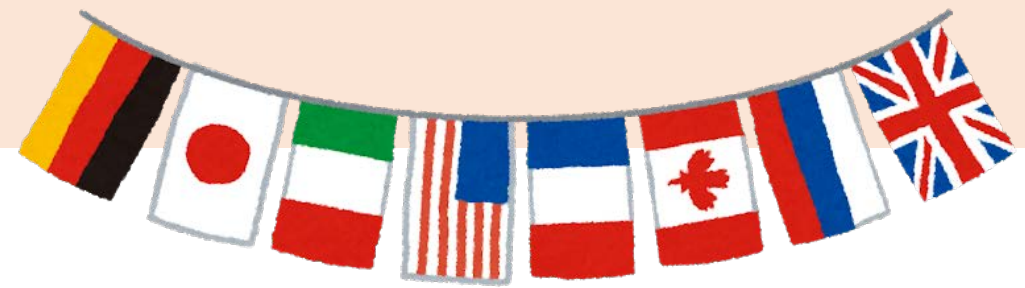
子育て支援

1 子育てしやすい（働きやすい）環境の推進

～ ニーズ調査を実施します ～



子育て支援



2 子育て支援広場の充実

同じ年代のお子さんを育てている親御さん同士の交流の場として、子育ての相談に応じ、必要な情報を提供することで、安心して子育てができるように支援していく事業です。（対象：0歳～就学前の親子）

(現行)

名称	場所	開催日・時間
子育て支援センター 「ひなたぼっこ」	中新田保育所 内	毎週火・水・金曜日 (月・木は随時相談) 9時30分～12時 ※毎週水曜日 (13時30分～15時)
子育て支援広場 「はっぴいぽけっと」	認定こども園 おのだひがし園	毎週火・水・木曜日 (月・金は随時相談) 9時30分～12時
子育て支援広場 「げんきっこ」	認定こども園 みやざき園内	毎週火・水・金曜日 (月・木は随時相談) 9時30分～12時



現在、週3日午前だけのみの開放、それ以外については相談業務を行っていますが、**令和6年度より週5日**、午前（9時30分～12時）午後（13時～15時）開催する方向で進めてまいります。

子育て支援

3 安全な遊具の設置



< 中新田 > 御仮屋児童遊園

ベンチはイメージ



< 小野田 > 小野田中央児童遊園

R5年度コンビネーション遊具撤去



< 宮崎 > 宮崎福祉センター

ビニール製の腰掛、常時取り外している



子育て世帯が楽しめる公園をめざします

農業の振興

【農業を取り巻く状況】

飼料や肥料など生産資材価格の高騰

エネルギー価格（電気料金）の高騰

異常気象による災害の激甚化・頻発化

農家の高齢化と人口減少による担い手不足

【農業振興方策】

農産物・食品の輸出

有機農業の推進

養蚕業の復活

新規作物の導入

[国では2030年までに5兆円の輸出額目標を設定]

加美町産農産物の輸出により農家の収入増加を目指します

【日本における輸出】

2022年の日本の農林水産物・食品の輸出額は、過去最高の1兆4,148億円と前年比で14.3%の増加

【輸出例】

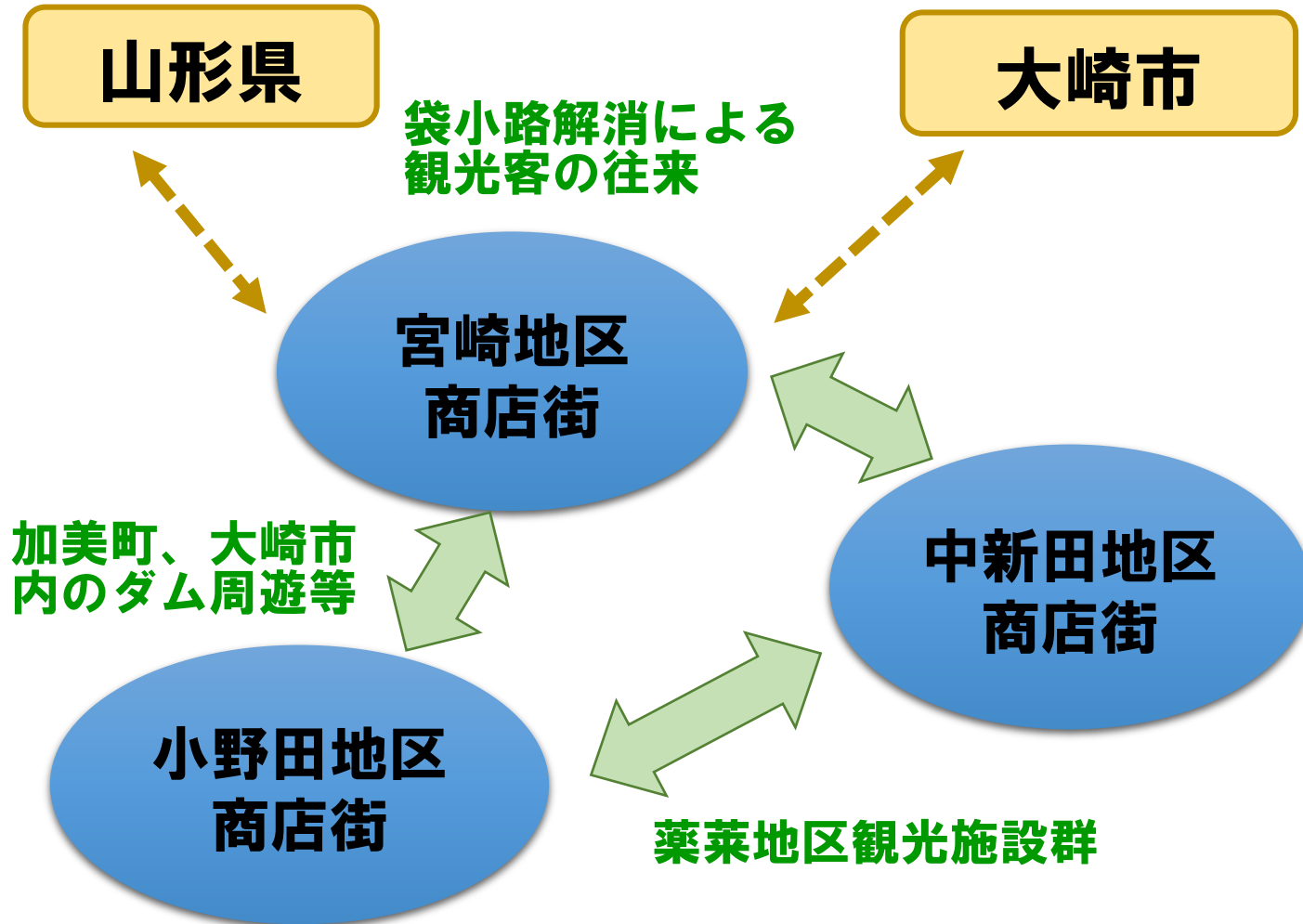
○日本酒：「SAKE」は日本食のみならず各国の料理に合う食中酒等として世界中で認知が拡大中。

○牛肉：和牛として世界中で認められ、人気が高く、引き続き輸出に期待。

○サツマイモ：焼き芋がアジアで大人気。輸出が急増。

中新田商店街の観光地化

加美町の中心部である中新田地区商店街を観光地化し、にぎわいを創出することで加美町全体の地域活性化を目指します。



資源の連携



ぼのぼのベンチ



ぼのぼの館

風力発電事業に対する町の対応

現在、合同会社JRE宮城加美（出資者：(株)JRE、東北電力(株)）が令和6年4月稼働に向けて建設を進め、(株)グリーンパワーインベストメント（GPI）、日本風力エネルギー(株)（NWE）の2社が建設を計画
しかしながら・・・

町では、風力発電事業に関して十分な住民理解が得られていないと認識

合同会社JRE宮城加美に対しては

- ・さらなる安全性の向上と今以上に住民理解を得ることを指導
- ・契約の見直しを要請

このことから

GPIとNWEに対しては

- ・町有地は貸し出さない
- ・保安林の解除に同意しない

3事業者と面談した際、次のような回答

合同会社JRE宮城加美

引き続き住民の理解を得る努力をする、また契約の見直しを検討する

(株)グリーンパワーインベストメント

拙速に事業を進めることはせず、立ち止まってしっかり考える

日本風力エネルギー(株)

信頼関係を築き、再エネ普及のために地道にやっていく

町有地の貸付に関する契約について
住民訴訟係争中